

では人手が少ないので人体病理学に専念し、目下臍頭十二指腸部癌の発生や膵炎の病理を新しい課題として仕事を始めている。

2. 学会発表（地方会は省略）

1) 肺門型早期肺癌——3手術例の組織像を中心として——、第19回日本肺癌学会総会、53. 8、徳島、

2) 山本恵一、北川正信、渡辺洋宇、岩 喬：肺癌における間質反応の諸相、第19回日本肺癌学会総会、53. 8、徳島。

3. 原 著（症例報告、第I輯記載洩れを含む）

1) 平野章治、田尻伸也、小林龍吉、北川正信：副辜丸、辜丸梅毒および前立腺梅毒の1例、臨泌 30：69-73, 1976。

2) 宮田佐門、力丸茂穂、高島力、北川正信：過去の放射線治療によると考えられる胸部食道癌の1例、癌の臨床 22：271-274, 1976。

3) 平野章治、高野学、田尻伸也、小林龍吉、北川正信：類白血病反応を呈した腎腺癌の1例、臨泌 30：209-213, 1976。

4) 広瀬昭一郎、黒田惇、金木美智子、日比輝彦、久保正、大山馨、吉崎享、北川正信：早期胃癌例の臨床的検討——進行胃癌と対比して——、富山県中病院医誌 1：58-61, 1977。

5) 北川清隆、竹前克朗、久住治男、北川正信：膀胱パラガングリオーマの1例、臨泌 31：1019-1022, 1977。

6) 梶川欽一郎、北川正信、黒田邦彦：富山県カドミウム非汚染地区に見出された骨軟化症の1剖検例、十全医会誌 86：559-563, 1977。

7) 岩瀬孝明、渡辺洋宇、羽柴厚、岩 喬、北川正信、横浜外雄：気管支内軟骨腫の1例、日胸 37：137-141, 1978。

8) 河北公孝、北川正信、渡辺洋宇、岩 喬：両側胸腺囊腫の1例とその病理学的考察、日胸 37：142-146, 1978。

9) 山本誠、太田正之、長谷田祐一、本多幸博、竹田亮祐、瀬尾迪夫、泊康男、北川正信： α -feto-protein 陽性を示した胃内重複癌の1症例、最新医学 33：816-819, 1978。

10) 草島義徳、泉良平、北川一雄、木下元、辻政彦、安積宏明、村田勇、北川正信、清水隆作、斉藤安雄：陳旧性巨大肝腫瘍の1例、外科診療 20：577-582, 1978。

11) 磨伊正義、沢崎邦広、秋本龍一、木南義男、竹内功、山本恵一、北川正信：大腸クローン病——著明な mucosal bridge を形成した1例を中心に——、胃と腸 13：1097-1104, 1978。

12) 三林裕、竹田亮祐、勝木健一、北川正信、黒田邦彦：血清LDHの異常高値を示し、片側性肺内癌性リンパ管症を呈した肺癌の1剖検例、内科 42：893-897, 1978。

13) 内藤克輔、勝見哲郎、久住治男、黒田恭一、杉岡五郎、北川正信：副腎囊胞の1例、臨泌 32：1145-1149, 1978。

14) 沢崎邦広、佐々木誠、沢武紀雄、北川正信、磨伊正義：非特異性多発性小腸潰瘍症の1症例、胃と腸 13：1653-1658, 1978。

病 理 学 (2)

教授 小 泉 富美朝
助教授 深 瀬 真 之
助手 若 木 邦 彦

1. 研究概要

1) 病巣感染症の免疫病理学的研究

ア) 病巣抗原の実験的検討

アルサス型アレルギー反応により、局所病巣に生ずる病巣抗原の役割を免疫病理学的に検討（小泉、深瀬、若木）。

イ) 病巣扁桃における陰窩内容物の分析病巣および非病巣感染扁桃における陰窩内容物について、Raji cell による immune complex の検討（深瀬、若木、小泉）。

2) 膠原病における血管病変の解析

ア) フィブリノイド血管炎と副腎ステロイドとの関連性

膠原病剖検例および動物実験により、副腎ステロイドの影響を検討（小泉、深瀬、若木）。

イ) 慢性関節リウマチの皮下結節の発生病理

16例の皮下結節を免疫病理学的に検討（深瀬、小泉、若木）。

3) 実験的SLE病変作成の試み

ラットによるds-DNA長期感作実験において、ds-DNA抗体の上昇とループス腎炎様病変の発生を認め、現在その病因を中心に検討（若木、深瀬、小泉）。

2. 学会報告

1) 小泉富美朝、深瀬真之、若木邦彦：壊死性動脈炎を伴った結核性チホバチロシスの1剖検例、厚生省特定疾患、系統的血管病変に関する調査研究班昭和52年度班研究報告会議、1978. 1、東京。

2) 小泉富美朝、深瀬真之、若木邦彦：プレドニン投与ウサギにおける副作用の病理学的研究——とくに血管変化について——、厚生省特定疾患、系統

的血管病変に関する調査研究班昭和52年度班研究報告会議, 1978. 1, 東京.

3) 深瀬真之, 若木邦彦, 小泉富美朝: リウマトイド皮下結節の免疫組織学的検討, 日本病理学会, 1978. 4, 熊本.

4) 小泉富美朝: 病理からみた扁桃と病巣感染, 第79回日本耳鼻咽喉科学会シンポジウム, 1978. 5, 新潟.

5) 若木邦彦, 深瀬真之, 小泉富美朝: 実験的SLE病変作成の試み——第1報, 第23回日本リウマチ学会, 1978. 6, 東京.

3. 原著

1) 小泉富美朝: 病理からみた扁桃陰窩, 日扁桃誌 17: 222-226, 1978.

2) 深瀬真之, 小泉富美朝, 東條猛, 村沢章, 中村敬彦, 羽生忠正: リウマトイド皮下結節の免疫組織学的検討, 新潟医会誌 92: 570-577, 1978.

3) 深瀬真之, 若木邦彦, 小泉富美朝, 蒲沢壮夫, 田村康二: 僧帽弁動脈瘤を伴った大動脈炎症候群の1剖検例, 心臓 10: 1263-1271, 1978.

4) Oguro, M., Koizumi, F. and Sasagawa, S.: Blood cells in the peripheral blood and hematopoietic organs of the human fetus during hepatic hematopoiesis. Acta Haem. Jap., 41: 1231-1241, 1978.

5) 小泉富美朝, 深瀬真之, 若木邦彦: 壊死性動脈炎を伴った結核性チホバチローシスの1剖検例, 厚生省特定疾患系統的血管病変に関する調査研究班1977年度研究報告書, 211-214頁, 1978.

6) 小泉富美朝, 深瀬真之, 若木邦彦: プレトニン投与ウサギにおける副作用の病理学的研究——とくに血管変化について——, 厚生省特定疾患系統的血管病変に関する調査研究班1977年度研究報告書, 370-377頁, 1978.

7) 根本啓一, 大崎直樹, 江村巖, 野本実, 柳沢茂, 隅田俊子, 山内春夫, 大西義久, 深瀬真之: 所謂Immunoblastic lymphadenopathyの12例——その臨床病理と細胞電顕所見——, 日網会誌 17: 195-208, 1978.

4. 総説

1) 小泉富美朝: 病理からみた扁桃と病巣感染, 日耳鼻 81: 1359-1361, 1978.

2) 小泉富美朝: フィブリノイド動脈炎の発生機序——SLEの場合——循環器科 4: 147-149, 1978.

3) 小泉富美朝, 深瀬真之: 副腎ステロイドホルモンと血管炎, 循環器科 4: 298-300, 1978.

5. 著書

1) 小泉富美朝: 病理と病因——柴田整一編, 42~50頁, 症例による難病へのアプローチ⑧結節性動脈周囲炎, 医学研究振興財団, 1978.

寄生虫学

助教授 上村 清
文部技官 丸山 由紀子

1. 研究概要

1) 蚊の研究: ①日本列島における蚊類昆虫の分類, 分布に関する調査研究, ②日本脳炎媒介蚊コガタイエカなどの発生動態, ③フィラリア媒介蚊アカイエカ群の変異性と吸血生理に関する検討などを行っている。

2) 観光地における不快害虫の研究: ①立山山岳観光地におけるクロバエ類の生活史, 垂直分布, 活動性など, ②山間部観光地におけるイヨシロオビアブの生活史, 多発要因など, ③山間地におけるクサギカメムシの越冬生理に関する研究などを行っている。

3) 動物性皮膚疾患に関する研究: ①マダニ類の人体寄生に関する研究, ②ツツガムシの季節消長と恙虫病の疫学的調査, ③その他, グニ類, 甲虫類, 毒蛾類などによる皮膚炎の調査研究を行っている。

4) 広節裂頭条虫に関する研究: ①広節裂頭条虫プレロセルコイドの神通川産サクラマス寄生状況に関する調査, ②広節裂頭条虫の生活史に関する研究を行っている。

5) その他: 環境庁委託による富山県における昆虫類の分布調査の総括を行っている。

2. 学会報告

1) 上村清, 渡辺護: 富山におけるシナハマダラカ群とコガタイエカの発生動態の比較, 第30回日本衛生動物学会大会, 1978. 4, 長崎.

2) 吉村裕之, 近藤力王至, 大西義博, 西田和美, 赤尾信明, グン・ヌグロフ, 藤田紘一郎, 池田照明, 藤森千衣子, 上村清, 森下薫, 藤井正男, 河北環, 竹下外来男: 福井県旧フィラリア流行地勝山地方の再調査(続報), 第47回日本寄生虫学会大会, 1978. 4, 長崎.

3) 荻田善一, 丸山由紀子, 岡田敏夫, 鈴木好文, 小林収: 電気泳動法による腎機能検査法の開発, 第28回電気泳動学会春季大会, 1978. 6, 神戸.

4) 上村清, 丸山由紀子, 渡辺護: 豚舎への蚊の飛来傾向について, 第33回日本衛生動物学会西日本